

日本基督教団

東日本大震災救援対策本部ニュース

Vol. 13

2014年4月14日発行

169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 T/F 03-3205-6088 救援対策本部長 石橋秀雄

東日本国際会議 報告



東日本大震災国際会議

International Conference on the East Japan Disaster

日本基督教団は、3月11～14日に上記国際会議を東北学院大学の協賛を得て同大学にて主催・挙行了しました。主題は、「原子力神話に抗して－福島からの問いかけ－」(Against the Myth of Safety of Nuclear Energy : the Fundamental Question from Fukushima)です。

1. 会議の参加者は、スタッフ、通訳者などを含めて250名、その内海外からの参加者は70余名でした。これは実行委員会の予想を超える参加者でした。11日の東日本大震災3周年記念礼拝は500名、姜尚中教授による記念講演には550名の出席者でした。

海外からの参加者の内訳は、教団が関係を持つ各国の教会（ドイツ、スイス、イギリス、アメリカ、カナダ、ニュージーランド、韓国、台湾、マオヒ・プロテスタント教会、アジアキリスト教協議会）43名と自主参加の方々です。

2. 会議の柱である3つの講演は、記念講演の姜尚中氏「犠牲のシステムを超えて－ミナマタ・ヒロシマ・フクシマ－」、基調講演の島蘭進氏「原子力発電の非倫理性と宗教からの声－福島原発災害後の苦難の中から－」、神学講演の近藤勝彦氏「エネルギー政策転換のカイロス－キリスト教神学の視点から福島原発事故を考える－」でした。これは、本にまとめて出版する予定です。その他の報告なども記録に残す予定です。

3. 会議の重要な要素として、宣言文があります。実行委員会が作った宣言文原案を、海外からの参加者5人を交えたステートメント委員会で修正し、グループディスカッションと全体討議で出て来た意見を取り入れ、会議での学びと討議が反映された形でまとめました。会議終了後数週間以内に発表する予定です。

4. 会議の評価を知るために参加者からアンケートを取りました。結果は、よい評価をくださった方がほとんどでした。感謝のほかありません。これは、主として、日本語、英語、韓国語、中国語の同時通訳、逐語通訳によるコミュニケーションをよく組織することができたことによると思われます。

この国際会議を行ったことによって日本基督教団は、大きな霊的財産を得たことになると思っています。これから、教団が世界の諸教会との交わりの中でいっそう成長しますよう祈ります。

東日本大震災国際会議
実行委員長
伊藤瑞男



国際会議を終えて

岡本知之（国際会議運営委員長）

り組みが映像資料等を用いて効果的に報告され、すべての、また特に海外からの参加者に、復興にかける現地の人びとの意気込みと力が伝わり、深い感銘を与えた。

次に、2日目の午前には東北学院大学を代表して、大学による支援活動の中枢を担ってこられた教員、学生の皆さんから、救援活動の組み立てに関する深い示唆を湛えた報告を聞き、東北学院が構築されてきた「震災学」の何たるかを、よく知ることができた。

午後には、会津放射能情報センターならびに、アジア学院からの現地報告がなされ、地震と放射能災害に遭遇した際の、市民生活への影響と地域での活動形成、また国際ネットワークの形成に与える影響の大きさとその内実について、短時間ながら十分に啓発的なプレゼンテーションがおこなわれ、会場に深いインプレッションを残した。その後に行われたパネルディスカッションは、新しい発表一つと、発題者間の討論を経て、会場との討議が行われ、この会議の方向性と意義を確認する時となった。

3日目以降は参加各国の現地報告とグループディスカッションがメインプログラムとなったが、事前の依頼に応じて、各発表者からの発題も、大変行き届いた、また内容の深い報告が為された。これらの発表資料を持ち帰るだけでも、大きな意義があるとの感想が、多くの参加者から寄せられたことはまことに嬉しいことであった。

今後、講演を中心とした記念出版とは別に、開会礼拝から閉会礼拝までを含めた、今国際会議の「全体報告書」をとりまとめ、教団所属の全教会はもとより、ひろくご希望下さるところにお届けしたいと思っている。

さて、その報告書の最終ページに掲載されるべき「国際会議ステートメント（声明）」であるが、これは現在、会期中に編成されたステートメント委員会に、その最終調整が委ねられている。この委員会は国際会議参加各国から会期中に選任され

今国際会議のハイライトとなったプログラムを紹介すると共に、会議の成果であるステートメントについてわかりやすく解説して欲しいというのが、私が編集部より受けたご依頼である。

しかし、この会議を終えた今、このご依頼に、ご要望の通りお答えすることの難しさを感じている。理由はプログラムのすべてが、参加者の多くに感銘を与え、深い内容を持つものとなったからである。

初日の震災3周年記念礼拝にはじまり、最後の全体会に至るまで、海外からの総勢75名を数える参加者と国内からの200名を超える参加者が、まことにタイトなスケジュールであったにもかかわらず、それぞれの立場から出来る限りのコミットメントを為して倦むことがなかった。

記念講演、基調講演、神学講演については、すでに幾つかの報告にも触れられているし、今後その内容が書物としても刊行される予定であり、会期中に配布されたハンドブックに掲載された内容と共に、多くの方に直接その中味を確認して頂けるであろう。

ここでは特に、それ以外の事柄に触れておきたい。先ず初日の夜、全体レセプションにおいて、仙台荒浜地区の方々が「すずめ踊り」をご披露くださったと共に、東北教区議長からこの3年間の取



■すずめ踊り

■パネルディスカッション



たメンバーによって編成された委員会であり、グループディスカッションでの討議を基に、2日目の夜から3日間連続してステートメント草案の作成に当たったものである。



これをたたき台として最終日午前の全体会ではステートメント作成の作業が全参加者によって行われた。最後に、そこで述べられた意見の

最終調整と文案化を会議構成員は、このステートメント委員会に託して、スタディーツアーや帰国の途についた。

今会議のステートメントの特徴を一言で言えば、それは何よりも教会自身の罪責の告白であり、かつ信仰の告白となっているということである。具体的な行動目標への参加アピールに終始するのではなく、人間の被る悲惨の多くを、実は我々人間の罪が引き起こしてきたものであることを明示し、これを懺悔すると共に、正しく神との関係に立ち帰り、託された命と使命を、よりよく生きる者になりたいという、会議全体としての信仰告白である。勿論その告白は、キリスト者一人一人において、また教会において、具体的に生きられるものでなければならない。

最後に、この会議が良き内容を備えて開催できたことについて、会期中の運営委員長として、関係各位に御礼申し上げると共に、特にスペシャルサンクスを申し上げる必要を強く感じている。先ずなによりも東北学院大学に対してである。同学院のかくも全面的なご協力がなければ、この会議は行うことが出来なかった。学長先生はじめ、学院側の教職員・スタッフの皆様は、心からなる御礼を申し上げます。

2つ目は日本基督教団東北教区の皆様に対してである。東北教区では早くから「現地運営委員会」を組織して、この会議への全面協力を行っ



て下さった。5日間にわたる今国際会議の現地運営が大過なく乗り切れたのは、東北教区の諸教会、信徒・教職の皆様の多大のご助力によるものであると、深く感謝申し上げたい。

3つ目は、身内のことになるのであるが、教団事務局の職員の方々に対してである。教団総会の年に、もう一つ総会を抱え込むようなハードな働きとなった事と思う。それを何とか乗り越え、その職務を全うして下さいたことに、衷心より感謝の意を表する次第である。

伊藤実行委員長の報告にもあるように、参加者が残してくれた評価シートによると、多くの人が今回の会議を評価する、しかも高く評価すると書いており（「UCCJにとって、また世界のキリスト教会にとって歴史的出来事」という記述もあった）、継続した開催を望む声が多い。数年のインターバルでの継続開催はとても無理であろうが、教団にとって初めての国際会議を、しかもこの規模で開催できたことの意味は大きい。

その意味をさらに実りあらしめるための働きと祈りを合わせていく者でありたい。



東日本大震災救援募金会計 総額 1,221,850,772 円

国内 851,478,118 円 海外 370,372,654 円 2014 年 3 月 31 日現在

東日本大震災救援対策委員会会計、
東日本大震災救援対策本部会計中間収支計算書（単位：円）

	合計
	2011 年 3 月 12 日 ～ 14 年 3 月 31 日
【収入の部】	
繰入金	50,000,000
海外募金収入	370,372,654
国内募金収入	851,478,118
集会等参加費	181,705
雑収入	239,085
繰入金収入	150,000,000
長期借入金収入	200,000,000
長期貸付金回収収入	103,483,629
収入合計 (A)	1,725,755,191
【支出の部】	
救 援 金 *1	205,357,063
会堂牧師館再建補助金 *2	415,348,429
見 舞 金	1,943,000
委 員 会 費	7,054,235
渉 外 費	1,657,329
人 件 費	75,143,007
事 務 費	58,223,283
活 動 費	11,570,078
車 両 費	10,604,327
建 物 費	13,241,982
繰入金支出	150,000,000
長期貸出金支出 *3	358,556,129
積立て預金支出	50,767,539
救援対策基金戻入金	50,000,000
長期借入金返済支出	70,000,000
支出合計 (C)	1,479,466,401
収支差額 (A)-(C)	246,288,790

* 1 救援金

2013.11.11	第 4 回北日本三教区親子短期保養プログラム (2013 年 8/16 ～ 22) 教団補助金	677,570
2013.12.3	2014.1.3 ～ 「こひつじキャンプ in 台湾」参加者 22 名分	3,000,590
2014.1.24	2014 年 3/26 ～ 4/10 第 5 回・3 教区親子短期プログラム	600,000
2014.1.27	エマオ仙台スタッフ人件費 2011、2012 年度分	7,073,782
2014.1.29	2014.1/3/7 こひつじキャンプ in 台湾 諸費用	404,888
2014.3.10	東北大学寄附講座支援	10000000
2014.3.19	2014 年 1/4 ～ 7 第 9 回こひつじキャンプ in 台湾 東京 YMCA 運営費用	176,980
2014.3.27	東北教区放射能問題支援対策室いずみのための献金	2,598,330

* 2 会堂牧師館補助金

2013.12.2	関東教区下館教会	12,500,000
2013.12.18	東北教区常磐教会	9,950,000
2013.12.26	東北教区郡山細沼教会	5,206,129
2013.12.26	東北教区中村教会	36,750,000

* 3 長期貸出金支出（会堂牧師館再建貸付金）

2013.12.18	東北教区常磐教会	4,000,000
2013.12.20	関東教区伊勢崎教会	24,000,000
2013.12.26	東北教区郡山細沼教会	5,206,129
2013.12.26	東北教区中村教会	30,750,000
2014.1.14	関東教区宇都宮教会	39,500,000
2014.3.5	清愛幼稚園（関東・四條町教会）	10,000,000

東日本大震災緊急救援募金・東日本大震災救援募金教区別集計表（単位：円）
【2011 年 3 月 15 日～ 2014 年 3 月 31 日】

教区	件数合計	金額合計
北海	150	6,063,921
奥羽	166	6,306,142
東北	85	3,330,807
関東	985	60,145,138
東京	1861	212,189,994
東京教区	15	5,002,446
東京・東	310	30,130,940
東京・西南	508	82,405,365
東京・南	190	31,617,813
東京・北	331	25,665,270
東京・千葉	507	37,368,160
西東京	788	79,448,609
神奈川	619	55,443,387
東海	605	188,491,816
中部	685	71,489,274
京都	100	10,476,424
大阪	524	36,956,245
兵庫	117	10,760,220
東中国	118	6,504,669
西中国	204	8,088,992
四国	404	19,317,325
九州	401	20,642,992
沖縄	105	2,554,515
個人・他	1,226	53,267,648
総計	9,143	851,478,118

第 9 回こひつじキャンプ in 台湾の感想

今回初めて海外で「こひつじキャンプ」が行われると連絡を頂いた時は、本当に驚きました。子どもたちにとっては国外へ出るのも、もちろんパスポートを取るのも初めてのことです。多少の不安はあったものの常々、異文化交流や語学学習にどんどん触れさせたい、と思っていたので親として大変嬉しく思い、子どもたちも「行ってみたい！！」と大喜びでした。

そして、いよいよキャンプが始まると、台湾では行く先々で大きな歓迎の嵐で、現地の方々は大切な時間を割いて私たちのために色々準備下さっていて、本当に胸が熱くなりました。ダンスを練習したり、料理を仕込んだり、暑い中で待ったり……1 つ 1 つがありがたくて感激でした。

そんな中で、息子たちは恥ずかしさもあり、なかなか行動を起こせずにいましたが、勇気を出して現地の子に話しかけ写真を撮ったり、ボール遊びをする事が出来ました。いっぱい走って、いっぱい汗をかいて、いっぱい笑っていました。

もっともっと子どもたちを交流させてあげたいなあと思え、充実した時間となりました。キャンプの中で息子たちは、とにかく「泥温泉」のインパクトが強かったようです。泥あそびを取り上げられてしまった福島の子には大興奮だったのも納得！！ですが、今でもあのキラキラ☆目で機関銃のように温泉とプールの報告をしに来た姿を思い出すと笑ってしまいます。

台湾の国を肌で感じた事は本当に貴重な体験になりました。そして台湾に行き、外から日本を見る事が出来たことで大きな発見がいくつもありました。日本に戻ってから、子どもたちと台湾と日本について沢山話しています。食べ物や風習、文化、人種について、戦争のこと環境問題に至るまで（笑）。息子たちから様々な質問を受ける度、彼らにとって台湾での「こひつじキャンプ」がとてもエキサイティングで有意義なものだったと心から感じています。

このような素晴らしい機会を与えて頂いた皆様に心から感謝しています。本当にありがとうございました。とても楽しかったです。“謝謝♥”

（台湾訪問 1 回目）保護者：I. M. さん 子ども：小学生男子 2 名（11 歳・9 歳）

